

株式会社アトス・インターナショナル(ミュージック・エア)
番組審議委員会 議事録

1. 日時：2019年6月13日(木) 17:00～17:30

2. 場所：株式会社アトス・インターナショナル本社 会議室

3. 出席者：

○番組審議委員(敬称略)

番組審議委員長 齋藤 純一(株式会社インプレスホールディングス 社長室 室長)

番組審議委員 五十嵐 弘之(株式会社ドリーミュージック 取締役 CFO)

番組審議委員 谷口 元(株式会社東京谷口総研 代表取締役社長)

番組審議委員 佐藤 毅(ゼフロユナイテッド株式会社 代表取締役社長)

番組審議委員 田中 良典(一般社団法人ヤマハ音楽振興会 教育指導統括部 普及企画部
企画担当部長)

番組審議委員 松山 梢(映画ライター)

番組審議委員 望月 秀城(株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 知的財産戦略グループ副
本部長 兼 契約管理部 部長 兼 著作権管理部 部長)

番組審議委員 駒形 四郎(音楽評論家)

<欠席委員>

番組審議委員 久保田 則好(Mustang Co.,Ltd. 代表)

○放送事業者

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長 福田 泉

編成局長 谷 俊之

○番組供給者

株式会社アトス・インターナショナル

堀口 昭典(代表執行役員社長)

城水 千明(代表取締役)

井上 靖(取締役兼執行役員)

木村 俊央(メディア企画部 メディア・グループ ミュージック・エア担当プロデューサー)

4. 放送事業者から説明

株式会社シーエス・ワンテンより 110度CSの概況について

5. 報告事項

①ミュージック・エアの編成方針・内容

ミュージック・エアは60～80年代の洋楽を中心にSA級の大物アーティスト、来日アーティスト

ト、周年記念アーティスト等の特集番組を放送。ジャンルとしては、洋楽ロック・ポップスが7割(60～80年代：75%)、海外JAZZが1割、オリジナル番組2割。視聴者の年代は、スカパー!、スカパー!プレミアムサービス共に50代の男女が多い(スカパー!視聴動向調査：2019年3月～5月)。

トピックスとしては、昨年末から今年にかけて大きな話題になった「クイーン」の昨年11月の映画公開時期と今年1月の一挙放送、3月の「ボヘミアン・ラプソディ」のアカデミー賞受賞に合わせた特集を放送し、今年1月の単チャンネル加入者は前年比約4倍となった。これはミュージック・エアでは長年クイーンを特集してきており、視聴者がチャンネルの特性を見極めて選択してくれた結果と考えている。

6. 番組内容審議

<番組概要説明>

①クイーン：ブレイク・フリー

2017年に制作された60分のドキュメンタリー番組。メンバーの生い立ちからバンド結成、デビュー、ブレイク、そしてフレディの晩年までを、メンバー本人や関係者のインタビュー映像、貴重な資料、ライブ・エイドの映像を織り交ぜて解説。出演者としては、クイーンのメンバーの他、デヴィッド・ボウイ、イギー・ポップ、ルー・リードなどのポートレートや、アルバムのジャケットなども撮影した伝説のカメラマン、ミック・ロック、当時のレコード会社の宣伝担当だったエリック・ホール等が当時のエピソードを語っている。

<委員からの意見>

- ◆映画のヒットと相まって、とてもいいタイミングで、待望のドキュメンタリーとなったと思う。ただ、当時のスタッフのインタビューを中心に構成するのは非常に難しい。ともするとスタッフの自慢話に聞こえてしまい、(番組の)途中で鼻につき始めた。もっとその辺のトーンを抑えた、引いた目を見たドキュメンタリーを見たかった。
- ◆映画(ボヘミアン・ラプソディ)を見た人がこの番組を見れば、映画の面白さがリアルにわかって、とてもタイムリーだった。ミュージック・エアの番組は50代くらいの男性視聴者がリアルタイム(で体験したアーティスト)の番組が中心になっており、以前よりかなりそちらに寄ってきている。これは世界的な潮流であり、再発のCD等も完全に若い人ターゲットではない。こういう(ブレイク・フリーのような)番組も世界でたくさん作られている。この世代に向けて作られた海外のドキュメンタリーをどんどん買い付けておけば、今回のようにドキュメンタリー映画とマッチする可能性も高まるのではないか。
- ◆ボヘミアン・ラプソディを見た層は50歳以上と20代が多かった。50代以上はミュージック・エアのターゲットだが、20代以下は新たに取り込める(視聴者)層ではないか。今後、エルトン・ジョン、デヴィッド・ボウイ、プレスリー、セリーヌ・ディオーン、ボーイ・ジョージ、ザ・スミス等たくさんのアーティストの伝記映画の公開が予定されているので、プログラミングを調整して、取り入れていけば、今回の(クイーン)のような効果が期待できるのではないか。
- ◆この作品(ブレイク・フリー)の上映会を東京他全国7大都市で行った。来場者の9割が女性で40代・50代が中心だが、親子連れで10代・20代の子たちも来場。ドキュメンタリーにもかかわらず、終演後には拍手が起こるといふ異例の上映会となった。アンケートでは、映画(ボ

ヘミアン・ラブソディ)で見た内容をもっとリアルに知ることができてよかったという感想が多かった。番組の中で紹介される関係者のプロフィールが英語のみだったので、日本語字幕の解説があればわかりやすかったという意見があったので、番組でもそういったサポートがあった方がよかったのではないかと。ミュージック・エアの他のクイーン関連番組も全て見たが、この番組(ブレイク・フリー)が一番よかったと思う。

- ◆日本人はクイーンが好きなので、タイミングも含めてとてもいい番組だと思った。見ていて一番衝撃的だったのは、エリック・ホールが「キラー・クイーンは僕のことを歌っている」と言っていたところ。
- ◆今回はたまたまボヘミアン・ラブソディと重なったが、音楽映画は数多く公開されており、近々では8月23日公開のエルトン・ジョンの「ロケットマン」では、1975年にドジャー・スタジアムで行われたライブが描かれるが、もし、そのライブ映像があったら是非見たいと思う。また、映画公開前にそれが放送できるのであれば、放送後にロケットマンの予告編を流したり、試写会プレゼントと合わせて放送できれば、引きがあるのではないかと。
- ◆クイーンが登場した当時は際物扱いされる面もあったが、女性はいち早くその魅力を見出していた。今となっては、娘が自分の母親が当時のクイーンの来日コンサートを見た友達に自慢するような現象も起きている。ミュージック・エアは男性ファンが多いが、この番組で新たな層を開拓できたのではないかと。

<質疑・応答>

- Q1. とてもいいタイミングだったと思うが、クイーンがこれだけ盛り上がるとわかってから編成されたのか？
- A1. ボヘミアン・ラブソディの前に「クイーンデビュー45周年記念」として企画していたが、ここまでとは予想していなかった。ミュージック・エアでは、従来からクイーンを取り上げていたので、今回もその流れで編成した。

<番組供給者からのコメント>

出演者に関するテロップ(日本語字幕)については、今後対応を考えていきたい。

<番組概要説明>

②JAZZ ピアノ 6 連弾 2018 クラシック万歳！

ミュージック・エアのオリジナル制作ライブ番組。昨年11月9日、東京芸術劇場大ホールでの「ジャズ・ピアノ 6 連弾 2018 クラシック万歳！」の模様を4K収録。出演者は日本のJAZZピアノ界を代表する小原孝、国府弘子、塩谷哲、佐藤允彦、佐山こうた(佐山雅弘代役)の5名。グランドピアノ5台をステージ上に配置5名が一斉に演奏する画期的な内容。

演奏曲目はクラシックをジャズにアレンジしたもので、120分番組、今年1月14日に初回放送。JAZZピアノ6連弾は昨年亡くなった佐山雅弘氏を発起人として、2005年にスタート。山下洋輔、亀吉敏子等大御所のピアニストが出演。昨年の公演には前田憲男氏、佐山雅弘氏が参加する予定だったが、コンサート前に病気になり、コンサート終了数日後に亡くなられ、番組としては二人の追悼の意味も込めて放送された。

<委員からの意見>

- ◆この映像を見て、コンサートに行きたかったと思った。ライブ(生)と記録映像を両立させるのは本当に難しいと感じた。いくら高画質で撮ってもライブに勝るのは難しい。視覚に訴えるようなライブではないので、視聴者がお茶の間でこの番組を2時間見ていると冗長に感じる瞬間が必ずあるはず。ただ、いいライブだったのだろうということは伝わった。
- ◆数あるライブの中でなぜこのライブを選んだのか不思議だったが、様々な権利処理の煩雑さを考えると、こういうチャンスを活かすしかないのだろう。
- ◆このコンサートにJAZZファン、クラシックファンのどちらが行っているのか気になった。また、ライセンス番組だと企画を立てづらいが、こういったオリジナリティのある作品の方がキラー・コンテンツになり得るのだろう。
- ◆このイベントはグループ内で2005年からやっている。出演者が(ミュージック・エアの)インタビュー番組に出演していたので、そのインタビューを織り込んだ編成も考えられたのではないかな。
- ◆今までピアノが5台も入ったステージは見たことがなかったので、番組として楽しませてもらった。俯瞰でピアノが星形に並んでいる映像は、こういった番組ならではの、とてもきれいだった。
- ◆グランドピアノが円陣を組んだ映像は圧巻で、映像としても面白かった。演奏ももちろん凄いが、驚いたのは(出演者の)皆さんおしゃべりが上手だったこと。それぞれ個性が際立って魅力的だった、誰でも知っているクラシックの名曲が演奏されたが、それぞれどういう意図でアレンジされたかを丁寧に解説してくれたので、より演奏を楽しめた。
- ◆カメラワーク、編集にもう一工夫あってもよかった。(手元の)寄りのアップはいいが、誰の手かわからないところがあった。

<質疑・応答>

Q1. オリジナル制作とのことだが、海外番販はしているのか？

A1. まだ行っていないが、是非やりたい、海外のコンベンションに参加を検討する。

Q2. この収録は何カメで撮ったのか？

A2. ステージ上に6台、引きが1台、アップ2台。

<番組供給者からのコメント>

- ・ライブ感、手元の撮り方、編集等について工夫していきたい。
- ・アップはリモートカメラで撮っている。収録マイクと会場マイクの邪魔にならないようなカメラ配置が難しいところだが、引きのカメラ台数を増やす等の工夫はできると思うので、次の機会に活かしたい。



- ・ 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：
今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和1年6月13日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で、活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。
- ・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：
令和1年7月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上